

設問1

復唱の障害が認められる失語症について、正しいのはどれか。1つ選べ。

A1	超皮質性感覚失語
A2	超皮質性運動失語
A3	混合型超皮質性失語
A4	健忘失語
A5	伝導失語

正解 A5

検者が言った言葉を復唱することが難しいのは、伝導失語の特徴である。また、音韻性錯誤(めがね⇒ねがね)も伝導失語の特徴である。

設問2

健忘失語について、正しいのはどれか。1つ選べ。

A1	音韻性錯誤が特徴である。
A2	迂言を呈する。
A3	日常の会話が困難である。
A4	聴覚理解が低下する。
A5	非流暢な発語が特徴である。

正解 A2

健忘失語(失名詞失語)は、物の名前が出てこないため、回りくどい表現となる迂言を呈するのが特徴である。

設問3

聴覚理解には問題ないが、非流暢な発語で発語に努力を要する患者に対するコミュニケーション方法として、正しいのはどれか。1つ選べ。

A1	ジェスチャーを交えて伝える。
A2	紙面に記載して伝える。
A3	簡潔に答えることができる質問内容にする。
A4	言いたいことが理解できた時点で、先回りして確認する。
A5	発語が止まった際は、細かく修正を加える。

正解 A3

聴覚理解は保たれているため、努力様の発語に対して注意しながらコミュニケーションを取る必要がある。「はい」「いいえ」などの簡単に解答できる質問内容にすることが重要である。

設問4

失語症の評価として、正しいのはどれか。1つ選べ。

A1	SLTA
A2	BADS
A3	VPTA
A4	BIT
A5	TMT

正解 A1

SLTA(標準失語症検査)は、「聴く」「話す」「読む」「書く」「計算」について評価する。

設問5

Wernicke失語について、正しいのはどれか。1つ選べ。

A1	発話は非流暢である。
A2	復唱は良好である。
A3	聴覚理解は保たれる。
A4	ジャルゴンが認められる。
A5	文章の読み取りは可能である。

正解 A4

Wernicke失語は、流暢性失語である。復唱、読み理解、聴覚理解は障害され、発話はジャルゴン(意味の通らない言葉の羅列)が頻発する。